

大核無(おおたねなし)

登録番号：第912号

登録年月日：昭和60年7月18日

登録者：大竹繁男（新潟県中蒲原郡
横越村二本木）

育成者：池田晴彦

来歴：「平核無」の1樹変異

育成地：和歌山県那賀郡那珂町

特 性

■栽培特性

樹姿は開帳性、樹は大きく、樹勢は強く、枝梢は太く屈曲性を有し、特に徒長枝や一年生苗木では屈曲性は強く現れる。葉身は長楕円形で極めて大きく、葉身は厚く、葉柄は太く、葉身の着生は横向きである。花は「平核無」と同様、雌花のみで雄花、完全花は着生しない。

育成地での開花期は5月中旬、成熟期は10月下旬で「平核無」と同時期、結果量、後期落果、隔年結果性も「平核無」と同様である。

■果実特性

果実の形、果皮の色等外観はほとんど「平核無」と同じであるが、果実の大きさが平均260～360gとすこぶる大きく、果梗がやや長く、著しく太い。果肉の色、肉質、種子の有無、脱渋の難易等についても「平核無」と同様である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害抵抗性は「平核無」と大差が見られないため、防除体系も同様でよいと思われる。花芽の着生も多く結実が安定しているので、摘蕾、摘果を実施し結実調節を図る必要がある。固形アルコールを用いた樹上脱渋を行う場合は、「平核無」に比べて落果しやすいので、時期を10日以上遅らせ、着色を開始してから処理を行い、ヘタ枯れを確認して除袋を行うようにする。

■地域適応性

本品種は、「平核無」の栽培地ではどこでも栽培可能である。特に大果系の果実出荷をねらう場合に適した品種である。しかし、本品種で産地化している事例は少ない。

(北野欣信)